

表3 「キューバ」の授業展開案(1時間)

現代の世界「キューバ」を利用して

○ 本時の目標

1. キューバの位置, 自然, 歴史を通して, 産業の現状を理解させる。
2. キューバ革命後の社会主義化, 国有化政策を革命前と比較しながら理解させ, キューバの外国関係や将来を考えさせる。

習 歴	学 習 活 動 ・ 内 容	時 間	指 導 上 の 留 意 点	備 考 ・ 資 料
Ⅴ 活 し 合 い	1. 導入「キューバの現状とモノカルチャー経済」をみる。 2. 番組の内容を話し合う。 キューバの位置、人種、キューバ革命、日常生活、砂糖モノカルチャー、etc 3. キューバの自然と歴史について話す。 (1) 自然 石炭質の第3紀層のゆるやかな丘陵地と台地状の平野 ・ 残海と湿地 ・ サバナ気候(Aw) (2) 歴史 ・ スペインの植民地(15～18世紀) さとうきびの産地→さとうきびの産地→黒人奴隷の労働力を使用 ・ 独立戦争(10年戦争) (1868～77年) ・ 独立以後のアメリカ資本の導入→モノカルチャー経済化 ・ 第2次独立戦争(米西戦争1898～1902年)→アメリカ資本の完全支配→アメリカ資本による製糖工場(セントラル)が建設 ・ 政情不安定政権が続く(独裁、パチスタ政権) ・ キューバ革命(1959年)	10分	・ 前時に前もって教科書のキューバの内容を読み、自然、歴史、キューバ革命、砂糖モノカルチャー、革命前と革命後の比較などを予習課題として与えておく。 ・ 位置、面積、人口、人口密度は、地図帳の巻末の統計や「統計要覧」を使用する。 ・ 平野や丘陵地が多いため、国土の約3分の2は可耕地として恵まれていることを理解する。	地図帳、統計要覧 ① 地形区分(OHP) ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪
講 義	4. キューバの現状について話す。 (1) 産業 砂糖、非鉄金属(ニッケル等)、はちみつ、魚介類、たばこなど (2) 革命後の改革 土地改革、企業国有化、私有財産制限 (3) 現在の農場 人民農場(国有地) さとうきび協同組合農場 } の他に放畜とヘクケン 自営農場(国有地+私有地) → さとうきび、とうもろこし、米いも (4) 砂糖モノカルチャー経済から脱出を試みる→工業化、自給自足経済 (5) 経済自立の課題 ・ ソ連援助の圧力 ・ 労働力不足と生産向上 ・ 機械化 (6) 人口、人種、教育 人口 933万人 人口密度81人 人 種 白人73%、メスチラ14.5% 黒人12.4% ウ 教育 ・ 革命前40%以上の文盲率を革命後4%台に低下 ・ 労働一体の人間づくり	15分	・ 産業の現状は貿易品の説明にて代用する。 ・ 革命前と革命後の農村の変わりを対比させ発表させる。 ↓ (グループ又は個人) ・ 特に農地改革 第1次(1959年) (402ha) 個人の所有面積30カバエリア 第2次(1963年) 個人の所有面積5カバエリア (67ha)	キューバの貿易品 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪
Ⅵ 見 聴	5. 終末「キューバ革命、外国との関係」をみる。 ア 今日のカスタロフの方針 ・ 社会主義国との結びつき強化(国際的連帯の強化) ・ 民族解放運動の推進 ・ 特にソ連との結びつき ソ連のコスイギン首相のキューバ訪問 カストロ首相のソ連訪問 カナダとの関係 日本との関係 イ キューバ共産党の結成 革命は民族主義的なもの→共産党綱領→制度変 ウ 教育の重視→キューバ全体が学校	10分	・ このT V視聴ははっきり「キューバの現状と将来」の内容として自覚させ、刻明にメモをとらせる。 ・ 貿易相手国として日本との関係が深いことを理解させる。 ・ 導入で視聴した「社会主義国内の国際分業体制の中でさとう産業」などについても理解させる。	キューバの貿易相手国 輸出 ソ連 36% 日本 17% スペイン 8% 輸入 ソ連 46% 日本 8% 西ドイツ 5% カナダ 4%
講 義	6. 本時のまとめ	2分	・ まとめと次時の予告をする。	

表2 発表学習テーマ小項目一覧表

—アメリカ合衆国を例として—	
1	アメリカ合衆国の開拓と地域形成 ア 旧移民と新移民 —その地域的配置及び社会的地位— イ 大陸横断鉄道開通の意義 —単調でスケールの大きな国土とその統一— ウ 最近の人口増加率と個人所得の地域的關係
2	アメリカ合衆国の自然と農牧業 ア 東西方向に変化する大地形、それに伴う気候の変化 イ 適地適作が徹底している農業 ウ コーンベルトの農業経営(タウンシップ制を含む) エ カリフォルニアの農業経営(果樹中心)
3	アメリカ合衆国の地下資源と工業 ア 豊富な地下資源 イ 工業の立地移動(綿工業, アルミニウム, 鉄鋼業) ウ 五大湖の役割りとその周辺の工業化(自動車工業中心) エ 第二次大戦後, 躍進した州の工業(軍需工業中心)
4	アメリカ合衆国の世界戦略—穀物と資本— ア 世界最強の産業 —兵器と農産物— イ アメリカの「食糧の傘」にある世界 ウ 超巨大な独占企業の実態(国内支配と海外進出)
5	アメリカ合衆国の社会生活と人種問題 ア 常に移動しているアメリカ人 イ WASP優位のアメリカ社会 ウ 南部とはどの範囲をさすか エ アメリカ合衆国における今日の人種問題

○の番号は生徒番号を示す

であるかを、常に念頭に入れて授業を開きなければならない。このためには次の授業に備えて、授業内容の中心となるべきところの予習、又は発表学習の中心と予想される項目を予習課題として設定し、生徒の関心を高め内容理解のための布石とする。

昨年度はほぼ毎時間、この予習課題を出し、時折課題の予習状況を点検した。この点検を数回繰り返すと、予習が習慣づけられる。一部の生徒は予習課題以外のことも、発表項目にしたがって調べてくるようになった。

② 一時間の授業の中でどこがヤマであるか、そのヤマをどこにおくかがた

いせつである。担当教師の授業中の講義やまとめにそのポイントをおくことが通例であるが、場合によっては生徒の発表の途中におき、その個所で担当教師が説明を加えて学習内容を強調することもある。また視聴しているテレビを中断して、そこで説明し生徒に問題を投げかけることも必要である。

③ 授業の目標行動を確実にとらえていく必要がある。このためにはまず授業内容を分析し、構造化し、生徒の学習行動を系統化し、行動目標や下位行動目標をうちたてる必要がある。特に発表学習やテレビ視聴を授業に取り入れる際は、この分析をおこない、常に授